

導の言語として採用する決定であつたらう。英語こそ、フアイピン人をその過去から切離したくさびであり、さらに後には教育あるフアイピン人を同胞大衆から切離すくさびとなった。英語はフアイピン人を奇妙な新世界へと導いた。フアイピン人は、アメリカの教科書によつて新しい言語だけでなく、新しい生き方、自分たちの伝統とは異質であるがお手本を漫画風になぞつた生き方をも学び始めることになった。これは同時にせせ教育の初まりでもあつた。かれらはもはやフアイピン人としてではなく、植民地住民として学習したからである。善良な植民地住民になるのであるから、民族主義の目標からは解体分断されねばならなかつた。理想的な植民地住民とは、征服者の忠実な複製であり、新支配者の大勢順応的な追隨者であるはずだつた。こうした人間が植民地秩序の下で、安楽にではなくとも平和に暮さうとすれば、過去を忘れ身についた民族主義の諸理想を忘却しなければならなかつた。新しいフアイピン世代は、アメリカ英雄の事蹟を学び、アメリカの歌を唱い、雪とサンタクロースを夢みた。サカイ將軍を一例とする民族主義抵抗運動の指導者は、山賊、無法者と做されるようになった。『Macanlis』Seben カラ・アナン黨員の革命指導者。一九〇二年アギナルドの米軍降伏以後も、タガログ列島政府を自ら樹立して、米軍とたたかいつづけた。フアイピン人英雄の伝記も教えられはしたが、民族主義の残した教訓はごまかされてしまった。スペインは悪者でアメリカが救済者だつた。今日でもフアイピン史の多くの書物は、水責めや平定村のような米占領軍の犯した残虐行為をとりつくろつて書かないでいる。真にフアイピン的な教育をアメリカの導入した新しい枠組内で工夫することは確かに不可能だつた。フアイピン人の魂の奥底から湧き出るものを汲みとることは、必然的に支配権力の利益とは一致する。

経済における姿勢

それだけでなくも三世紀にわたるスペイン圧制下にின்滅されてきたフアイピン人の過去は、アメリカ植民地支配の下で蘇生を許されなかつた。いやむしろ逆に、わが祖先たちはこの海辺に流れつき定住した奇妙な異民族であり、現在のわれわれともかすかなつながりしかもたないというふうに歴史は扱かうのである。スペインがフアイピン諸島を征服した一六世紀中葉以前のこの社会の状態は未知の部分が多い。われわれは自分たちが外国に観光に來た旅行者であるかのような感覚で祖先のことを読むのである。

植民地における経済生活の支配こそ、植民地支配の基本であつた。帝国主義国の中には粗暴な仕方では経済支配を行なう国もあるが、合州国の名はとくにその微妙で独自の支配法により挙げられてしかるべきである。たとえば自由貿易は、アメリカ的愛他精神による気前のよい贈物として提案された。これと平行して教育政策がこの見解を補強するとともに、フアイピン人の首に巻きつけられた縄が次第に強くなり締めつけられていくのを緩和する役割を果さなければならなかつた。フアイピンに渡來するアメリカ人の経済的意図は、まったくフアイピン人の理解を越えるものであつた。事実、兵隊教師による初期の学校時代から今日にいたるまで、フアイピン史の書物は、米國を慈しみ深い國家で、スペインからフアイピン人を救済し自由と民主主義の恩恵を堪めるために渡來したと述べている。今日もフアイピン人が、

合州国は、世界の指導者の位置にありその経済的利害関係も世界の多岐にわたっているという事情によって、国際主義的志向をもっている。この国際主義志向は、長期にわたり保持され安定した民族主義的見解に基盤をおいている。合州国の教育には、青年層にアメリカ民族主義の発展を強調する緊急の必要性は存在しない。経済的、政治的、文化的に、合州国は自らの家の主人である。だからアメリカ教育は当然、われわれフアイビン人が必要とするような種類の民族主義をあまり強調しない。その代りに国際主義を強調し、民族主義の方は控えめにするのである。この感覚は貴く良いものだ。だがそれが、民族主義を忘れてしまったりかつて一度も吸収したことのない民族に教えること、無数の災いを生み出すことになる。わが民族に自国生産物にたいする誇りを持たせ自国自然資源に警戒心をもつて当らせようような確固とした民族主義の基盤を欠いたまま、世界同胞の連帯や他国にたいする友好を強調すること、これまでにたいへん有害な結果をもたらしてきた。その災害の中でも主要なものは、外国人には友好的であるという全国民的な徳目が、愚かな悪徳に変質してしまい、自らを傷つけ、略奪をこととする外国人に進んでたぶらかされる人種にフアイビン人を変えてしまったことであつた。

反フアイビンのフアイビン人

こうしてわれわれは、外国による経済支配を自己満足しながら許してきた。われわれはさらに自国内で富を蓄積したり、自分たちの財政的成功について自賛の記事を書いたりする外国人を誇りにするようになつた。われわれは外国人がこの国を地上の楽園と呼ぶのを好ましく聞いてきた。われわれは一

度たりともたぢまつて、楽園はかれらにとつてだけであり、何百万ものフアイビン同胞にとっては楽園ではなかつたことを反省しようとはしなかつた。われわれの中でもいくらかは知的に解放された同胞が、民族主義の運動を進めたり、あれこれの企業の有化運動を推進したりしたときに、フアイビン人はこれを支持したろうか。答は否である。無関心だけがあつた。それは、わが同胞をまつ先に守り支援するよう自分たちを駆りたてる民族主義が心に育つていなかつたからである。さらに低劣なのはあつた種のフアイビン人が、外国人を差別しているとして悪く思われはしまいかと、かれらの感じ方ばかり気にすることである。最低なのは、多くのフアイビン人が民族主義的な立法措置に反対していることである。それは、かれらが進んで外資系企業の召使いに身をおしていたり、自分たちの歪んだ意見によつてフアイビン人は外国資本や外国人企業家の援助がなければ自力で進歩できないと考えているからである。

一般に民族主義思想が強くないという点でわがフアイビン人は、世界のこの地域でほとんど独自である。われわれのこの取多き性格の出自はどこにあるのだろうか。一つの重大な源泉は確かに学校である。学校教育で民族主義が強調されることはすくない。愛国心は確かに教えられている。だがそれとでも、国家への愛、国旗の尊敬、田園美の評価、その他同類の無害な国民性発現形式について、一般的に言葉で述べるにすぎない。

フアイビン教育が痛ましく失敗した結果、外国人との関係を信じて疑わない驚くほど単純素朴な市民層が生れ、その面前で国家が侮辱されても怒りを感じる能力さえ失ない、外国人がわが自然資源を略奪

で、読み書きさえ出来ない有様だ。この国の言葉を一語さえ理解できないふりをする人間に会ったこともないともいふのかい。

土着の言語による教科は小学校二年に終り、それ以後の教育は英語であるがピリビノ語であるかまだ未解決になっているのは、いかにも不幸なことだ。「現在フアイピンは、タガログ語をベースとする国語を持っている。ピリビノの名称を与えられたこの国語は、六〇年代後半、民族意識のたかまりとともに急速に普及した。七三年一月、戒厳令体制が公布した新憲法は、議会がフアイピノという名称のもとに共通の国語をつくり上げ、これを正式に採用するための措置を講じると定めている。フアイピンの教育専門家は、国語問題について多々論じてきた。だが土着言語の普及がめざましい成果をあげているというのに、専門家たちの態度には明らかに臆病さが看とれるのであって、だれひとりとして教化の言語として外国語を捨てざる緊急の必要があることを公然と打上げる者はいない。しかも教化の手段として英語を用いることの有害な影響は、重大かつ多岐にわたっている。リサールがスペイン語について語ったことは、英語についても妥当すると証明されている。

民主主義の障害

スペインがフアイピンで維持した制度の下では、教育の機会がきわめて狭く限られていたために、勉学は選ばれた少数者のみの享受するものだった。この開明教養集団がイラストラドと呼ばれた。イラストラドはエリートでもあった。かれらの多くは富裕階級出身だった。この階級だけが、高等教育のた

らである。

確に自己表現できない。自国方言の発展を意図的に抑えているのではないにしても、それに無関心だかみしゃべれるやや大きな集団と、英語は何も言えない大衆がある。すべてのグループは、自国言語で正今やフアイピンには、自分の思想を英語で正確に表現できる少数の人びと、かなり達者に英語を読層は、その前任者と同じく、新しい母国の生活様式の強力な支持者であった。だが長期的には英語がイラストラド階層の存在を恒久化した。アメリカ式イラストラド階層のフアイピン人が蒙を啓かれ教育を受けるのだから、存続するはずがなかった。特権階級は消滅するはリカ式生活様式を吸収できるとされたのである。このテーゼでは、イラストラド階層の存在は、すべてあった。この言語によってこそ、フアイピンは、貧富の差別をせず何人にも平等の機会を与えるアメリカを教化の手段として強制する表向きの理由のひとつは、英語が民主主義の言語であるという点にアメリカ式教育の所産である人びとがかかれらにとって代った。英語が民主主義の言語であるという点にアメリカ式教育の所産である人びとがかかれらにとって代った。あり、アメリカ体制の初期に最初のフアイピン指導者となったのはこの階級の出身者であった。後にれらもまたスペイン教育にとらわれた人間だった。かれらの多くはまづ先にアメリカに降伏した人間であつた。だがかれらは大部分、スペイン植民地体制内で改良を願う改良主義者であつた。ある意味でか間には広いギャップがあつた。もちろん多くのイラストラド出身者がプロバガンダ運動を指導したのでめに子弟を海外に留学させ得たからである。だから勉学は特権の証しとなった。イラストラドと大衆の

その結果、指導層が大衆の必要を理解できないということになった。指導層は一般的にあいまいな言

